

インターバンクの声（2016年11月15日）

主に南米、中東、アフリカの通貨を追い掛けている方々は別だが、主要通貨を取引の中心にしている方々にとって、足元での旬の通貨ペアはどう見てもドル円になっている。トランプ次期米大統領の財政・通商政策によってインフレが高進しそうだとの強い期待感によるドル買いもそろそろ賞味期限切れかとも思っていたが、はっきりと106円台に乗せてからは1円超のドル売り調整が未だに起こっていない。

昨夜はロンドン市場の昼前に一瞬108円15銭まで価格が飛ぶ場面はあったものの、東京市場の夕方から5時間以上にわたって108円乗せを躊躇し続けていたので、少々ドル売り調整が入るかとも思っていた。しかし、ドルの下値も107円70銭台で抑えられ、結局6月3日以来5ヶ月ぶりとなる108円台中盤までドル買いが進んだ。大統領選当日の東京時間での大幅なドル下落で付けた101円台前半から一週間足らずで7円超のドル上昇はさすがに早過ぎるような気もする。大統領選前、ヒラリー候補の圧倒的優勢を報じた本邦メディアは、今度は17日(木)のトランプ次期米大統領と安倍首相の会談で意気投合するだろうなどと安易な期待感に満ちた報道をしている。安倍首相はTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)の先行きに弱気になっているとの噂も聞こえており、17日で一旦ドル買いにブレーキが掛る可能性もある。トランプ・安倍会談には注意が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。